
けいおん！～白球を夢見て～

阪神政虎（阪神虎之介）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！〜白球を夢見て〜

【Nコード】

N9880U

【作者名】

阪神政虎（阪神虎之介）

【あらすじ】

【現在休載中】

元から共学の桜ヶ丘高校にとある一年生が入学し最初の夏の大会が始まった。

「けいおん！」に野球をぶつけた作品です。

尚、この話には物語の都合上実際のチームや野球選手が出てきますが現実とは関係ありません。

始まり（前書き）

野球の小説を書いてみました。

始まり

―明治神宮野球場―

プロ野球東京ヤクルトスワローズが本拠地に行っている球場で高校野球の試合が行われようとしていた。

アナウンス「桜ヶ丘高校、ノックの練習をしてください」

アナウンスが流れ元気よく選手が飛び出していった。

監督「セカアンドオ！」

カキン！

打球の音が球場内に響き、二塁手が打球を捌く。

監督「サアドオ！」

カキン！

今度は三塁手取る。

その三塁手はライナーで打球をとったため三塁手はボールを後ろに転がした。

そしてそれを後ろにいる一年生が捕ってエナメルバックに入れた。

三塁手「平沢ガンバ！」

平沢「ウスッ」

彼の名前は平沢誠、今年桜ヶ丘高校に入学し野球部に入部した一年生である。

ノックが終了し、西東京大会の一回戦、桜ヶ丘高校対都立河合坂高校の試合が始まった。

始まり（後書き）

次回から試合です。

桜ヶ丘高校対都立河合坂高校（前書き）

試合開始です。

桜ヶ丘高校対都立河合坂高校

桜ヶ丘高校（先攻）

? 宮本（三） 3

? 小島（遊） 3

? 北村（一） 2

? 上野（投） 3

? 小田島（右） 2

? 武川（左） 3

? 岡村（中） 3

? 御園（二） 3

? 木下（捕） 3

都立河合坂高校（後攻）

? 田島（投） 3

? 木村（三） 3

? 土田（二） 3

? 杉山（右） 3

? 富樫（左） 3

? 桜井（捕） 3

? 中村（一） 3

? 村雨（遊） 3

? 大村（中） 3

アナウンス「一回の表、桜ヶ丘高校の攻撃は一番、サード、宮本くん」

【うとうとう】

サイレンが鳴り響き河合坂高校の投手、田島が第一球を投げた。

【カキン！】

乾いた音とともに打球が三遊間に消えていった。

・ ・ ・ ・ ・

三回裏終了

桜1―1河

四回表の桜ヶ丘高校の攻撃の前にいきなり桜ヶ丘高校が円陣を組んだ。

監督「みんな、ここでたたみかけろ、さっきの守備でゲッツーをやったんだ。その勢いを打撃に持って来い！」

みんな「ハイ！」

監督「それと平沢、この回から三塁コーチャーボックスに入れ」

平沢「ハイ！」

三塁コーチャーボックスとは三塁の隣にあるコーチとかがたつ場所である。

アナウンス「四回表、桜ヶ丘高校の攻撃は六番、レフト、武川くん」

武川「シャア！」

武川は気合いを入れて打席にたった。

平沢（今日の田島は序盤からコントロールが乱れがちだな）

その時だった

【コーン！】

平沢（！！！！）

武川はベンチの指示でセーフティバンドを試みたが、田島がコントロールミスをして126kmの直球が顔を強打した。

平沢「武川先輩！」

武川「うう…」

ベンチから様子を見に行った同じ一年生部員が監督に向かって×をやった。

平沢（武川先輩鼻血出してるよ…）

武川はベンチに下がっていった。

平沢（代走には二年の桂先輩かな？足速いし）

平沢は呑気にそう考えていたところだった。

アナウンス「桜ヶ丘高校、負傷選手に代わり代走、平沢くん」

平沢「ハア!？」

ベンチを見ると監督は「行け」とジェスチャーを送っていた。

マジかよ…
平沢

平沢は仕方なしに一塁へ行った。

アナウンス「七番、センター、岡村くん」

岡村「ウガア!!」

岡村も気合い充分だ。

平沢は軽くリードをとった。

平沢（行けたら行くか）

田島は岡村に向かって放ったのと同時に平沢は二塁に走った。

塁審「セーフ！」

河合坂高校の捕手桜井は「まさか！」という顔をしている。

無死二塁

打者は岡村

田島は第2球を投げた。

【カコン】

球審がバンザイのポーズで「ファウル」と言った。

平沢（岡村先輩本気だな）

平沢はそう思いふっとベンチを見ると監督が盗塁のサインを送っていた。

それを平沢は帽子を頷いて応答する。

しかし田島は平沢をこの後執拗に牽制する。

平沢（くっそ）

そして田島の5球目

平沢（来た！）

平沢は走った。

しかし田島はこの日最速の139kmのストレートを高目に投げた。

平沢（やっべ！）

平沢はスライディングしたがタイミングはアウトだった。

しかし捕手の悪送球で三塁手がボールを取れなかったためセーフ。

平沢（まさかやん！）

そして岡村のスクイズで平沢がホームイン、1点を勝ち越した。

・
・
・
・
・

五回裏終了

桜2ー1河

一点リードで試合は終盤に進んだ。

アナウンス「六回の表、桜ヶ丘高校の攻撃は六番、レフト、平沢くん」

平沢「ヨシッ！」

平沢は打席で燃えていた。

何しろ高校野球初打席である。

田島の初球

126kmのカーブ

【カキン！】

センター前に弾き返した。

平沢「ウェイ！」

平沢は素直に喜んだ。

中野「いいねー平沢」

平沢「それはどうも」

一塁コーチャーボックスにたってたのは同級生の中野敦。

同じリトルリーグのチームで過ごした仲間だ。

中野「また岡村先輩がバントすると思うから準備しとけよ」

平沢「ヘイヘイ」

しかし…

【カッキイン！！】

岡村の打球は右中間を破った。

平沢（二塁打か？）

二塁打と思った平沢は三塁で止まる気だった。

しかし平沢の代わりの三塁コーチャーボックスにいる二年生の先輩が腕を大きく回している。

平沢（突入！？）

ふと後ろを見るとライトがもたついていた。

平沢（了解！）

平沢は三塁ベースを蹴ってホームに突入した。

スライディングするまでもなく楽々とホームインできた。

岡村の三塁打で桜ヶ丘が更に一点を勝ち越し二点リードとした。

桜3ー1河

9回裏

この回桜ヶ丘の投手上野が打たれて無死満塁。

内野がマウンドに集まった。

宮本「2点差なんだ、1点取られても気にするな」

北村「俺たちがしっかり守ってやる。」

そして

【カキン！】

河合坂高校の代打根本の打球は右中間を破った。

ちなみにライトは平沢である。

桜ヶ丘高校対都立河合坂高校（後書き）

未熟なところがありますがよろしくお願いします。

同点（前書き）

長らくお待ちしました。

同点

右中間を破った打球を平沢は走りながら捕ると、8回から二塁を守っていた中野が「誠！三塁！」と叫んだため平沢は三塁ヘストレートに投げた。

三塁審「アウト！！」

平沢の投げた球はダイレクトに三塁に行った。

中野（やるなあ）

しかしこれでランナーが二人帰り同点にされた。

上野「スマン、せっかく勝てると思ったのに」

木下「気にするなよ、まだ終わったわけじゃねえ」

中野「そうですよ先輩、一死二塁です。抑えましょう！」

マウンド上に内野手が集まって話していると

永見「伝令、伝令」

ベンチから二年の永見毅がやってきた。

永見「監督が『まだやれるか？』と」

木下「辰也（上野の名前）はまだやれる！いちいちくるな！！」

上野「いや…健太（木下の名前）…もう無理だわ…」

木下「へ？」

上野「元々スタミナ無いうえに打たれ弱いから…自信が無い」

木下「…そうか、でもお前以外にまともな投手はいないぞ？…おい
永見」

木下が言い終わる前に永見はベンチに帰って監督と話している。

木下「まったく人の話しは最後まで聞けよ」

木下は永見に向かって小声で悪態をついた。

永見は監督に話すとすぐに審判に向かって走っていった。

木下「オイオイ…マジで辰也降板かよ…」

アナウンス「桜ヶ丘高校選手の交代をお知らせします。ライトの平沢くんがピッチャー、ピッチャーの上野くんがライトに回ります。」

木下「はあ？平沢？」

上野「あの一年か、確かに肩は強そうだな」

木下「肩が強いだけで投手が務まるか!!」

中野「木下先輩、平沢は中学まで投手ですよ」

木下「そうなのか？球種は？」

中野「確かフォークとカーブです。」

木下「球速は」

中野「それはわかりませんが見たほうが早いと思います。」

木下「そうか」

平沢「お待たせしました」

木下「お、来たな一坊」

そう言って木下は平沢とサインを決め元の場所に戻った。

平沢「さて…と」

平沢は投球練習を始めた。

軽く振りかぶって平沢は木下に投げた。

【パシィ！】

木下（こいつのフォーム岩隈だな…それも近鉄時代の…）

平沢のフォームは近鉄時代の岩隈のフォームにほぼ近く、足を止めないところ以外は見間違いするほどである。

木下（しかも…なんだコイツ…速い！）

木下は投球練習をしている平沢の球に正直微々っていた。

実際、後でスピードガンで計測したら140kmは軽く出ていた。

木下は平沢に変化球を投げるよう指示した。

平沢が言うにはフォークしか投げれないという。

平沢が振りかぶって投げた。

するとどうだろうド真ん中に来たボールはいきなりストーンと落ちた。

木下「おわあ！」

情けない声を出して木下はボールを落とした。

木下（なんなんだ、あいつは…大魔神佐々木か？）

木下は横浜ファンである。

規定の投球練習が終わり河合坂の二番打者木村が打席にたった。

同点（後書き）

「岩隈ってあの楽天の？」とか「近鉄の岩隈とか知らんわ！」と言う人のために

・ 今楽天の岩隈です。

・ 近鉄時代の2段フォームだと思ってください、平沢はそれを止めずに投げます。イメージが付かない人はYouTubeとかで「岩隈 近鉄」とかで検索してみてください。

平沢対河合坂打線（前書き）

やっぱり野球は難しい…

平沢対河合坂打線

主審「プレイ！」

主審の合図で木村は構えた。

木下（これまでの木村は4タコに仕留めている、だけど全部初球を降っているからここは速球で詰まらしてもらおう）

そう考え木下は低目の直球を投げるように指示した。

平沢が頷く

平沢が大きく振り返った。

主審「ストライク！」

木下（あら？振らない？）

木村は低目の直球を見逃した。

木下（おかしいな、こいつ超攻撃型だから打つと思ったんだけど…
やっぱりサヨナラのチャンスだから真剣にやってんのか？）

木下はそう考えたが実際は…

木村（はっええええ）

単に速球に手が出なかったためである。

ちなみに先程の球は142km出ていた。

ネット裏にいたある人達が騒ぎ始めた。

男性？「なんなんだ？あいつ？」

男性？「誰だ？本当に高校一年か？」

男性？「平沢誠？どこのチーム？桜ヶ丘シニア？」

この人達はスポーツ新聞等の記者である。

平沢の高一とは思えない速球に注目しているのだ。

そしてその中には…

荻窪「すごい…」

彼の名は荻窪裕二

阪神タイガースのスカウトである。

名も無き東京の高校同士の対決だがこの前の試合で阪神が注目している左腕がいたためその視察だったがそのチームが5回コールドで勝ってしまったので時間が余ったのと次のチームが母校だったから見ることにしたのだ。

荻窪（これは将来性ありだな…）

実際、高校一年から140を投げる奴は日本中探せば幾らでもいる。

しかしそれ以外に注目されているのは…

主審「ストライク！バッターアウトウ！」

コントロールの良さと唯一の変化球であるフォークの切れ味だ。

木村「……………」

河合坂の監督「どうした木村？」

木村「早いつす」

河合坂の監督「…そうだな」

アナウンス「三番、セカンド、土田くん」

土田（うわぁ〜撃てるきしねえ〜）

木下（もう全部速球でいいよ）

バシイ！

主審「ストライク！」

バシイ！

主審「ストライクツウー！」

バシイ！

主審「ストライクバッターアウトウ！」

土田（……………なんすか最後？）

木下は最後にフォークを投げさした。

荻窪（変化球はあれだけかな？）

荻窪はあのフォークに少し驚いたがプロは昔とは違う。

昔なら江夏とか江川とかカーブだけでも通用したが今は2つぐらい無いととても通用しない。

アナウンス「四番、ライト、杉山くん」

杉山「打てるかなあ？」

自信なさげに打席にたった。

木下（最初は低目の変化球で）

木下がそうサインをだす。

平沢^{ほい}

平沢は頷いた。

平沢はフォークを投げた。

【カキン！】

主審「ファール！」

木下（ゲッ！？）

平沢（あれを振るかあゝ）

しかし杉山が当てた理由は

杉山（すげえ…適当に振ったら当たった…）

あと杉山は「ドカベン」の坂田三吉の通天閣打法に憧れたのか「よく振れるね?」と言われるほどのアッパースイングである。

木下（アッパースイングで当たるのか…）

平沢（アッパーは当てますよ先輩…）

その思いが通じたのか木下はストレートを要求してきた。

主審「ストトライク!」

これで追い込んだ。

杉山
なぐってほしいか…

平沢対河合坂打線(後書き)

次回で試合終わります。

桜313河

【投手】

平沢

【打者】

杉山

【走者】

根本(二塁)

9回裏

B

S

O



次回へ続く！

9 回裏ニ死二星

都立河合坂高校の四番打者杉山直哉は冷静だった。

中学時代に読んだ水島新司の「ドカベン」にハマって野球をやり始めた。

しかしやっぱり強豪校から声はかからず都立の河合坂という常に初戦敗退の高校だったが彼の入部によって事情が変わった。

元々野球をやる前は喧嘩好きの暴れん坊だったこともあり力があつた。それが影響してか現在通算21本という打棒で少しプロから注目されている。

実は平沢とは小学校同じである。

杉山（そう言えばアイツ妹いたよなあ）

杉山は試合中に気づいた。

そして同時に可愛い二人の妹がいた事も思い出した。

思い出話もしたいが今は敵チームの投手だ。

杉山は構えなおして打席にたった。

平沢はロージンに手を当てている。

杉山（打っ！）

去年杉山の打棒で三回戦まで進んだチームだ。

しかしそこで優勝候補の黒鳥学園に敗れ去った。

平沢が振りかぶった。

杉山はバットを振った。

バシィ！

主審「ストライクバッターアウトウ！」

杉山「畜生！」

三振だ。

試合は延長に入った。

延長10回

バッテリーボックスに平沢がたった。

河合坂の投手田島は少し微々っていた。

田島（嫌やゝさっきの速球投手やろ、そんな奴と戦いたくない、

さっさと帰ってゲームやりて〜)

田島はその事を考えていた。

平沢 (撃たないとな)

田島 (畜生…杉山があそこで三振なんかするから…)

田島は捕手の桜井を見た。

桜井は高目を要求してきた。

田島 (高目の変化球でいいかい?)

田島はそう返す。

桜井 (びびるな、相手は一年だぞ)

桜井はそう返した。

田島 「マジかあ…」

田島はそう言ったのを平沢は見てた。

平沢 (あれは変化球来るな…どうせ「一年だから直球で」と言ったところ「いや念には念で変化球で来い」とでも返したんだろ?)

平沢は捕手の桜井を見てそう感じた。

田島が投げた。

平沢（よっしゃカーブだ！）

平沢は思い切り投げた。

【カッキン！】

打球は高く、高く、神宮第二球場が見えるレフトスタンドへ消えていった。

そして走っていった三塁審が大きく手を回した。

それはホームランを意味する。

平沢「嘘だろ？」

平沢は走りながら呆気にとられていた。

試合はその後、桜ヶ丘三番手永見がしっかり抑えて4－3で勝った。

9回裏ニ死ニ星（後書き）

桜ヶ丘高校対都立河合坂高校

試合結果

桜 1 0 0 1 0 0 1 $\frac{1}{4}$

河 0 1 0 0 0 0 0 $\frac{0}{3}$

桜：上野－平沢－永見／木下

河：田島／桜井

勝利投手

平沢

セーブ

永見

敗戦投手

田島

本塁打

杉山（河合坂）？

平沢（桜ヶ丘）？

～学校・練習・帰宅～（前書き）

グダグダですな

原作キャラも登場

〈学校・練習・帰宅〉

―河合坂高校戦後初めての学校―

平沢「おはよー」

中野「オッス！」

曾我部「あっ！平沢くん！」

平沢「何だ？」

曾我部「今日の地域新聞見た？」

平沢「何で地域新聞？」

曾我部「これよ！これ！」

そう言って曾我部は地域新聞である「桜ヶ丘新聞」を平沢の机に置いた。

平沢「は？」

中野「何々？『桜ヶ丘高校に期待の星 平沢誠』って…なんじゃない？」

平沢「俺が何した？」

中野「いやいや、あんだけ活躍しているんだから」

曾我部「そうよ！桜ヶ丘高じゃ平沢くんちよつとした有名人よ！」

平沢「『都立河合坂戦で無死二塁のサヨナラのピンチから三者三振で切り抜けたあと延長10回自らのバットで決勝打となるホームランを放つ』ありゃマグレだろ〜」

中野・曾我部「いやいや、マグレでも凄いから」

中野「それにおまえあのフォーク、どんだけ落ちるんだよ！」

平沢「俺でもわからん」

・ ・ ・ ・ ・

学校が終わり、野球部の部室へ行くと

平沢「こんちやっす！」

木下「来たな、ヒーロー」

北村「おうヒーロー」

平沢「木下先輩に北村先輩、何ですか、皮肉ですかヒーローって」

木下「この前の試合だよ！テメェなに引退する俺達より目立ってん

だよ！」

平沢「すみません…」

上野「いやいや、謝んなくていいよ、でも次の試合も期待しているよ」

永見「でも次の試合白鷺学園ですよ」

上野「だからこそだよ平沢には少し期待している、だから頑張れよ！」

平沢「は、はい！」

木下「ようし！そうとなったら練習だ！」

全員「ウッス！」

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・
平沢「はあく疲れた」

唯「あ！お兄ちゃんおかえりー！」

そう言うとき唯は誠に抱きついた。

平沢「わ！ちよ、やめろ…疲れとるんだ！」

唯「汗臭い…」

平沢「当たり前だ」

そう言って練習着を洗濯物を入れてる箱の隣の空き箱に入れた。

着替えた後、憂がご飯だという事で食卓の場へと向かった。

〽学校・練習・帰宅〽 (後書き)

次回は視点が変わります。

その後試合です。

萩窪編その？（前書き）

萩窪に視点が移ります。

荻窪編その？

荻窪は桜ヶ丘高校の正門前にいた。

彼はかつてここの野球部員（投手）として甲子園を目指した。

しかし一度も甲子園へ行くことなく引退、その後大学で野球をやっていたら大学二年の時才能が開花。

その二年後、ドラフト6位と低かったが阪神タイガースが指名した。

最初は二軍だったがプロ2年目で初勝利をあげた。

しかし、3年目で利き腕である右腕を痛め、それを引きずるかのようにたった5年目で戦力外通告を言い渡された。

そして今年、スカウトとして改めてタイガースの一員になった。

そしてスカウト一年目の夏、黒鳥学園の左腕エース、橋本英治を見に明治神宮野球場に来たが出なかった上に5回コールドで終わってしまい、どうやって本部長に連絡しようかと考えていたところ母校に平沢誠という投手（外野手）を見たのであった。

そして詳しく調べるために久々に母校の土を踏んだのであった。

荻窪「さて、事務室に行くか」

荻窪は「来校者」という事で来たと言うことを伝えに事務室に行った。

すると

荻窪「あれ？さわ子？」

山中「先輩!？」

高校時代の後輩がいた。

荻窪「おまえも来校者か？」

山中「いいえ、私ここの教師になりました。」

荻窪「そうなの!？お前が…そうか、アイツに憧れていたものな…」

山中「その事は言わないで…」

荻窪「あ！失恋したんだ？」

山中「先輩!!」

荻窪「ハハハ…ところで、野球部ってどこで練習している？」

山中「昔も変わらず裏のグラウンドよ」

荻窪「ありがとう、じゃあ」

山中「またね」

荻窪は学校の裏門から出て向かい側にあるグラウンドへ行った。

部員1「バッチコーイ！」

部員2「オウーイ！」

自分の後輩にあたる奴らが必死こいて練習している。

さて「平沢誠」はどこだろう。

荻窪は昔も今も変わらない監督に会いに行った。

荻窪「監督」

監督「おお！誰かと思えば荻窪じゃないか！！久しぶりだな！」

荻窪「監督、いまここに平沢ってやついない？」

監督「いまあそこでキャッチボールやでている奴の真ん中にいるやつだ」

荻窪「あゝ、いましたねー『平沢』って書いてますねー」

監督「何だ？上野を見に来たんじゃないのか？」

荻窪「いや、前回の対戦であいつが気になったもので」

監督「平沢は走攻守揃った奴だよ、でもそれが逆に弱点でもあるがな」

荻窪「と言うと？」

監督「一生懸命し過ぎて怪我が多い、ここまで二回も怪我してる。」

荻窪「怪我…ですか…」

荻窪は怪我した直前の試合を思い出した。

ー荻窪の回想ー

あれは真夏の横スタでの横浜戦だったな…

俺は二軍で通算15勝を達成したとき一軍へ呼ばれた。

まあ右の先発が不足していた時代だったからな…

まだJFK（ウィリアムスー久保田ー藤川の投手リレーの別称）が健在で先発は6回か5回で充分だった。

先攻の阪神がシート、金本の連続タイムリーで2点を先制してのマウンドだった。

その日の俺は絶好調で3回までノーヒットピッチングだった。

ただ4回、石井琢と内川に連続ヒットを浴びて3番、鈴木尚典さんを向かえてだった。

何故か4回から右腕に違和感が出てきて上手く低めに決まらず鈴木尚典さんをフォアボールで出して満塁にしまった。

そしてこの日のベイの4番、佐伯貴弘を迎えた。

矢野「大丈夫か？さっきから腕の振りがおかしいぞ？2点差なんだ、今までのお前だったらゲッツーにできる、2点なら取られてもいいんだ。」

先発捕手の矢野さんがそう言うが正直、右腕の違和感が尋常では無かったが久々の一軍のマウンドだったから降りたくなかったのだ

荻窪「大丈夫です、いけます。ちょっと打たれただけです」

といった。

今思えばあそこで「右腕の違和感」について矢野さんに言っとけば変えてもらったかもしれない…

矢野さんが戻り佐伯が構えた。

主審「プレイ！」

主審の声が頭に響く

俺はゆっくり振りかぶって投げた。

ボールはワンバウンドして矢野さんの頭上を超えた。

パスボールだった。

一塁ランナーがホームへ返った。

再び矢野さんがマウンドに来た。

矢野「やっぱりどこかおかしいんじゃないか？」

荻窪「大丈夫です大丈夫です」

「そうか…」と言って矢野さんは戻っていった。

三塁ベンチを見ると岡田監督の指示か投手コーチが電話している。

冗談じゃない、こんな所で終わってたまるか！！

俺は矢野さんのサインを見て…合図して…投げた…

【カキーン！】

打球音が聞こえた。

ライトの濱中さんが下がるが、諦めた…

グラウンドスラムだった…

矢野さん、今岡さん、鳥谷、関本さん、シートさんが集まり投手コーナーが来た。

俺は橋本健太郎と交代し、二度とマウンドを踏むことがなかった。

ー回想終わりー

荻窪「監督、大事に使ってくださいね、俺みたいになったら終わり

ですから」

監督「わかった、とりあえず阪神がアイツに注目していることはわかったから任せておけ」

荻窪「ありがとうございます」

俺は監督に頭を下げた。

・
・
・

中野「なあ誠、監督と喋っていた人誰だ？」

平沢「知らん」

荻窪編その？（後書き）

石井琢郎…現広島東洋カープ

内川聖一…現福岡ソフトバンクホークス

鈴木尚典…元横浜ベイスターズ（2009引退）

佐伯貴弘…現中日ドラゴンズ

矢野輝弘…元阪神タイガース

シート…元阪神タイガース

金本知憲…現阪神タイガース

今岡誠…現千葉ロッテマリーンズ

橋本健太郎…現千葉ロッテマリーンズ

岡田監督…現オリックスバファローズ監督

鳥谷敬…現阪神タイガース

濱中おさむ…現東京ヤクルトスワローズ

以上実在のプロ野球選手の紹介でした。

尚、この小説に登場する実在の選手、チームなどは実際とは関係あ

り
ま
せ
ん。
。

対白鷺学園戦 試合前（前書き）

試合前なので短いです。

对白鷺学園戦 試合前

明治神宮野球場

木下「ハハハ!! 喜べお前ら! 俺のクジ運のおかげで3回戦まで全部神宮だ!」

部員達「イエー!!」

木下「特に今日は白鷺学園戦だ! どうせアイツら一年生しか使ってこない! だから序盤に叩け!」

部員達「イエー!!」

・ ・ ・ ・ ・

木下「マジかよ(笑)」

白鷺学園(先攻)

? 小坂(遊) 1

? 葛城(右) 1

? 村田(三) 1

? 桜木(一) 1

? 野坂(左) 1

? 景山(中) 2

? 松戸_二 1

? 熊谷(捕) 1

? 星野(投) 1

桜ヶ丘高校(後攻)

? 宮本(三) 3

? 小島(遊) 3

? 北村(一) 2

? 上野(投) 3

? 小田島(左) 2

? 平沢(右) 1

? 中野_二 1

? 御園(中) 3

? 木下(捕) 3

平沢「あれ?俺がいる?」

中野「あ!?!俺もいるぜ!?!ヒヤッホー!?!妹が今日来ているから
ビックリするだろうな」

今日は日曜日である。

平沢「え?梓来てるの?」

中野「さっき来てたのを見た」

平沢「じゃあ唯達も来てんのかな?」

中野 「とりあえずお互い家族が来てるんだから頑張ろ!!」

平沢 「お…おう（大丈夫かお前？）」

木下 （こっちにも一坊が二人いるし…）

対白鷺学園戦 試合前（後書き）

次回からプレイボール！

一年生達（前書き）

プレイボール！

一年生達

主審「プレイボール！」

「ううう」とサイレンが鳴り響く中、桜ヶ丘高校対白鷺学園高校の試合が始まった。

―バックネット裏―

荻窪「さて、『黄金世代』と騒がれる白鷺学園高校の一年生達にどうやって桜ヶ丘は挑むか…」

―スタンド―

木下「しまってゆくぞー！！！」

ナイン「おおー！！！」

上野は白鷺の先頭打者である小坂司を…

【カコン】

引っ掛けた。

引っ掛けたその打球はセカンドの中野の方へ行った。

中野「一丁上がり！」

そう行っただ瞬間だった。

ボールは中野の下をくぐり抜けた。

中野「ゲッ!!」

中野がそう言って振り返った時だった。

塁審「アウト!!」

中野「エエエエ!!」

中野はおかしいと思った、自分はトンネルしたためボールは一塁じゃなく外野の方へ言ったはず

中野は二塁方面を見るとそこには寝っころがっている平沢がいた。

中野「なんでそこで寝てるの？」

平沢「アホ、お前の代わりに一塁に投げたんだよ」

平沢は「中野どうせ張り切ってエラーするな」と感じて中野の後ろに回り込んでボールを一塁に投げたのである。

だから記録は「ライトゴロ」である。

中野「ありがとう誠!後で梓の生写真あげるよ!」

平沢「アホ!しっかりやれや!あと俺は自分と同年プلامي1じゃないと受け付けないから!」

中野「わかった、わかった」

アナウンス「二番、ライト、葛城くん」

二番葛城が打席に入る。

木下（二番打者だけど力はある：低目のボールで様子見…）

上野^{オツケ}

【カッキーン！！】

木下（え！？）

上野（マジ？）

上野は木下のサイン通り、低目のボールを投げてきたが葛城はそれを流し打ちした。

平沢（間に合わないな）

平沢は前進したが間に合わないと判断してワンバウンドで捕球した。
（と言ってもショートバウンドだからエラーする確率が高い）

木下（やっぱりアイツ上手いな）

上野（さあて、三番か…）

三番村田を向かえた。

木下（さあて、どうやって攻めますか？）

上野（最初は直球で…）

木下（直球を投げたそうだから内角ギリギリに直球を）

上野（了解）

【ピシュ】

上野のスリークォーターが美しく見えた。

【カキン】

上野「ガウ！」

上野は変な奇声を発したが空しく打球はセンター前へ運ばれた。

いきなり一死一、二塁のピンチである。

つええな…
木下

アナウンス「四番、ファースト、桜木くん」

そして白鷺期待の大砲、桜木健太を向かえた。

華奢な身体からはとても思えないパンチ力で一回戦では3打席連続本塁打をやりのけた。

木下（上野、外せ）

木下はそうサインする。

上野（言われなくても…）

上野は投げた…が…

上野（ゲッ！！）

上野が放ったボールは木下の遥か右へ逸れた。

パスボールだった。

そして二塁から一人生還。

白1ー0桜

一年生達（後書き）

白鷺学園高校対桜ヶ丘高校

試合状況

白 1 — 1

桜 —

白：星野／熊谷

桜：上野／木下

一回表

【投手】

上野

【打者】

桜木

【走者】

村田（二塁）

B ●

S



上野VS桜木（前書き）

原作キャラ多数登場

上野VS桜木

いきなり初級のパスボールで一点を先制された桜ヶ丘高校。

そして打席に立っているのは白鷺の四番桜木健太。

現在、1ボールで向かえてる。

木下（ドンマイ、ドンマイ）

上野（ふう〜）

上野はマウンドで深呼吸をした。

上野は二塁ランナーを見つめてリードしていないことを確認すると三塁スタンドを見た。

するとツインテールの可愛い女の子が目に入った。

上野（可愛いな、でもどっかで見たことあるな？）

上野はプレート（マウンドの下にある白い板）を外してロージンを叩きながら記憶を思い出した。

上野（そうだ、中野の妹か）

上野は思い出した。

上野（名前は何だっけなく、歩じゃなくて…茜じゃなくて…なんだっけな？）

上野はテキトーに木下のサインを見てテキトーに投げた。

ど真ん中だった。

木下（マズい！）

【カッキーン！！】

桜木が打った。

上野は天を見上げた。

上野（くっそ）

塁審「アウト！！」

上野（え！？）

桜木の打球はライナーで中野のミットに入り塁審がダイレクトに取ったということでツウアウト、そして上手く二塁に滑り込んでラッナータッチアウトでゲッツーで切り抜けた。

上野（マジかよ！）

上野はベンチに戻るとすぐ

上野「中野、おまえの妹来てるな？」

中野「あっ、はい！」

上野「名前は何て言うんだっけ？」

中野「梓です。木に辛いってかいて梓です！」

木下「何だ、おまえに全然似てない梓ちゃんが来たのか？じゃあおまえ、さっきのプレイは恥ずかしいな！」

中野「いや、あれは…」

平沢「おまえ張り切るといつもエラーするじゃん」

中野「誠まで…」

木下「ようし！お前ら円陣組め！！」

部員「ウィッス！」

「視点が変わりー」

梓（お兄ちゃん、何やってるのよ…いきなりエラーなんかして…でも平沢さんすごかったな…走ってとって投げるのがとても早かった…）

中野父親「敦はなんだ、あのプレイは誠くんが敦のこと知らなかったら二塁打だぞ」

「また変わりー」

唯「うゝい、あついよゝ」

憂「ハイハイ、水よお姉ちゃん」

唯「わゝ、ありがとう唯」

部員達「GOーGOー桜!!!! GOーGOー桜!!!! オゝ、Let's
s g O G Oー!!!」

スタンドにいる野球部員達が大声で叫ぶ。

唯「ひゃあゝ、凄いねゝ」

憂「うん」

唯「お兄ちゃん打つかなゝ」

憂「打ってくれるのを一緒に祈ろう」

唯「うん!」

上野VS桜木（後書き）

「GO—GO—桜！」の部分はその部員達が叫んでいるだけで歌じゃありません。

緩急に打てない上野と小田島（前書き）

題名どおり

でも上野中心にやります。

緩急に打てない上野と小田島

2回表終了

白 1 2 — 3

桜 0 — 0

1回裏

1番宮本【空振】

2番小島【見三振】

3番北村【三ゴ】

2回表

5番野坂【四球】

6番景山【三野】

7番松戸【右犠】

8番熊谷【中犠】

9番星野【四球】

1番小坂【左2】

2番葛城【二ゴ】

木下「オイオイ…1安打で2点も取られたよ…」

監督「しまっていけやあ！」

みんな「ウィッス！」

アナウンス「二回の裏、桜ヶ丘高校の攻撃は、四番ピッチャー上野くん」

上野「一年生に負けてたまるか」

上野は星野を睨みつける。

白鷺の捕手熊谷は

熊谷（めっちゃ打ち気や…星野、初球超スローカーブ、アウトコースからインコースへ）

熊谷はそうサインする。

星野が頷いた。

軟投派の星野はダイナミックに振りかぶって投げた。

上野^{おわっと}

主審「ボール」

上野（危ね〜）

上野は振りかけたがスローカーブがアウトコースからインコース、つまり自分に向かってきたとき打つのを止めた。

当てたらゴロになるのは目に見えてる。

熊谷（今のボールか…）

熊谷は次にアウトコースに指示した。

星野はアウトコースに直球を投げた。

上野（うわっ！）

主審「ストライク！」

熊谷
ウシツ

上野（参ったな…）

さっきのスローカーブは80で今のは120である。

バッティングセンターとかでやると分かんと思うが80のあと休憩入れずに120を打つのは素人には難しいしプロでも難しいと言われる。

この星野投手のモデルとなった元阪急、オリックス・阪神の星野伸之投手はそのスローカーブで二桁勝利を上げたことで有名である。

上野は打席で唸った。

上野（不味いな…緩急のピッチングは嫌なんだ…）

先の回の三人はことごとくスローカーブと直球だけのピッチングで三者凡退した。

上野はヤマを張ることにした。

上野（次は、緩急が来るかな？）

上野はそう考えた。

しかし上野は致命的は事にきずいた。

捕手である熊谷政治の性格を考えてなかった。

熊谷（星野、次はインコースにバシッてやれ）

熊谷はそうサインした。

星野（あ、やっぱり？おまえ本当に内角好きだな…）

星野は振りかぶって…投げた！

上野「うわぁ！」

【バシッ！】

審判「ストライクツウー！」

上野「え！？今のストライク！？」

熊谷「上野さん、そんなにベースに近づいているからですよ」

上野「そ…そうか…」

上野（外角来ると思ってた…）

熊谷（よし、次は一球落とせ）

星野^{りょーかい}

星野はスローカーブを投げた。

ボールからストライクゾーンを横切ってボールに行く外角の球である。

しかし上野は振ってしまった。

完全に直球を待っていた。

審判「ストライクバッターアウト！」

上野^{はあ…}

熊谷「よっしゃ！良いぞいいぞ！」

そう言っただけ熊谷は一塁の桜木にボールを送った。

続く5番小田島も「直球、直球、変化球」でタイミングが合わずサードフライに終わった。

平沢「さあ、俺の出番だ！」

緩急に打てない上野と小田島（後書き）

その他にもモデルになっているプロ野球選手はいますが、それはこの大会の後にやる自己紹介で載せます。

次回は星野 V S 平沢・中野です。

一年生の対決

アナウンス「六番、ライト、平沢くん」

平沢はネクストバッタースサークルで腰を捻った。

そしてバットを持ってバッターボックスへ向かった。

平沢は試合前のミーティングの内容を思い出した。

ー回想ー

監督「いいか、星野のスローカーブもそうだが問題は今日星野とバツテリーを組む熊谷が重要だ！」

みんな「ウィッス！」

ー終わりー

平沢「熊谷、久しぶり」

熊谷「おう」

熊谷、桜木とは同じシニアチーム出身である。

だからお互いによく知っている。

熊谷（平沢はシニア時代流し打ちを中心に次に繋ぐ打法だったが今は違うらしいな…）

熊谷は一球様子見を星野に要求した。

主審「ボール！」

熊谷（うん、今まで桜ヶ丘の連中が打てないのがわかった…こいつらファーストストライクから振ってくる）

要するに初球打ちである。

熊谷（じゃあ次は内角に）

熊谷は内角によった。

平沢（でたミスター内角）

平沢は見送った。

主審「ボールツウー」

熊谷（あ、これボールかあゝ、じゃあこれだ）

熊谷はサインを出した。

星野（ストライクからボールになるフォーク？）

星野は軽く疑問に思ったが投げた。

【カキン！】

主審「ファール！」

よっしゃ
熊谷

中野（あれ見送ればボールじゃね？）

中野はネクストバッターズサークルでそう思った。

アイツフオークもあるのか…
平沢

平沢は参った。

平沢（何に絞るか…）

熊谷（よし、内角から逃げるボール）

りょーかい
星野

星野は投げた。

【カゴン！】

主審「ファール！」

平沢（イダー！）

熊谷（バットに当てた？）

正確には手の上で打ったので衝撃がある。

平沢（中野に代わりたいたい…）

現在のスコア

B	S	O
●	●	●
●	●	●

いわゆる平行カウントである。

熊谷（さて、平行カウントからどうするか…）

熊谷は悩んだ挙げ句

熊谷（星野、ボールカストライクどっちかわからないようなギリ低め）

星野^{りょーかい}

つまり低めギリギリを付けと言うことである。

熊谷（振ったら儲け者、ボールだったらまた考えよう）

星野が振りかぶって投げた。

この日最速の122kmだったとか

それを平沢は…

平沢（あ！ボールだ！）

振りにいったが途中でボールと判断して中途半端なスイングで見送った。

ボール…
平沢

しかし

熊谷「スイング！」

一塁審に熊谷がアピール、結果は

一塁審「アウト！」

スイングと取られスリーアウト

中野「ドンマイ、ドンマイ」

平沢「スイングかあゝ」

一年生の対決（後書き）

中野「ねえ俺の出番は!？」

虎之介「次回かな？」

中野「ちゃんと出してよ!？」

打てない打線、打たれる投手（前書き）

現在

白	桜
1	0
2	0
—	—
3	0

打てない打線、打たれる投手

現在無死一塁で桜木を向かえている。

木下^{さくぎ}

桜木は独特の動作を行って既に上野のほうを見てる。

木下（一球高目で様子見を）

木下は熊谷と違い、高目で様子見をする。（熊谷は横に外すか、ウエイトする。）

上野^{よし}

上野は振りかぶって投げた。

桜木（甘い！）

【カッキーン！！】

上野「あ！」

上野は振り返ったが…

センターの御園が…見送った…

二塁審が腕を回す。

「ワアアアアアアア！」

途端に一塁側から大声援が聞こえた。

本塁打、しかもバックスクリーンに打ち込んだ。

桜木はガッツポーズしている。

白 1 2 2 — 5

桜 0 0 — 0

平沢「五点差か…」

平沢はスコアボードを眺めた。

ちなみに桜木の打球はバックスクリーンの右側にある焼きそばなどを売る店に直撃したとか…

アナウンス「五番、レフト、野坂くん」

野坂「バッチコイ」

この打者も長打力がある。

【カキーン！】

アナウンス「六番、センター、景山くん」

【カーン！】

アナウンス「七番、セカンド、松戸くん」

【カキーン！】

木下「無死満塁…」

監督「永見、肩作っとけ」

永見「ハイ」

熊谷「平沢出てこないかな」

打てない打線、打たれる投手（後書き）

―三塁スタンド―

憂「お兄ちゃん三振しちゃったね」

唯「うん、でも次は打つよ！」

憂「チャンスに強いもんね!!」

梓「誠さん…」

上野炎上

アナウンス「八番、キャッチャー、熊谷くん」

熊谷も桜木同様に独特のパフォーマンスをしてから打席に入る。

前川「あいつ、掛布（元阪神）かww」

白鷺のエース前川は熊谷の構えを見てそう言った。

木下（内角低め）

上野^{よし}

投げた。

主審「ボール！」

上野のボールは少し下に行った。

木下^{じゃあ……これ……}

木下は外角高目を要求

上野^{りょうかい}

木下もバカだがそれに文句付けず投げる上野もバカである。

上野は高目に直球を投げた。

カキイン！

木下「センターー！！」

木下がセンターにそう叫ぶが

御園「無理だあ！」

打球は御園と平沢の間を通り、フェンスに激突した。

平沢「任せろ！」

平沢はすぐさま打球をとって二塁へ投げた。

しかし：

小島「ウワァ！」

二塁のカバーに入った小島がエラー

熊谷「ごっつあんです」

熊谷の二塁打で白鷺は三点を追加した。

白 1 2 5 — 8

桜 0 0 — 0

そして

アナウンス「桜ヶ丘高校、選手の交代を致します。ピッチャーの上野くんに変わりまして、永見くん」

平沢「ヤバいなあ…」

永見毅、桜ヶ丘高校の二年生投手。上野と同じく多彩な変化球が武器だが…

パーン！

主審「ボール！」

コントロールが悪い…

木下（5回コールドも覚悟だな…）

平沢（いつまで続くんだ？この回？）

中野（梓どこだ？）

上野炎上（後書き）

掛布：4代目ミスタータイガース（景浦初代換算）

打法は説明するよりみた方が早い

白 125—8

桜 00—0

白鷺

星野／熊谷

桜ヶ丘

上野—永見／木下

本塁打

桜木【白鷺】

―客席の様子―

唯「うわー、5点も取られたよー！」

和「唯〜」

唯「あ！和ちゃん」

和「お兄さん大変ねえ」

唯「熊ちゃんと健くん打ったよ」

和「敵チームじゃない…」

梓「あゝあ、熊谷さんにも打たれた…」

永見の荒れ球でようやくチェンジ(前書き)

やっと3回表終了

永見の荒れ球でようやくチェンジ

永見は現在、無死一、二塁でマウンドに立っている。

永見「しかし今日は暑いなあ〜」

そう呟いているから余裕なのかと思いきや

主審「ボール！」

現在

B●●●

S

O

である。

アララ…
平沢

そして永見の第4球…

【カキン！】

甘く入ったストレートを打たれた。

だけど

中野「ウシヤアアアアアアアア！」

バシッ！！！！

二塁審「アウト！」

熊谷「ゲッ、マジ？」

中野「センパイ！」

小島「はいよ！」

二塁審「アウト！」

熊谷「ウワァ……」

小坂の打球は中野の横っ飛びで捕られ、二塁ランナーの熊谷が帰れずゲッツーとなった。

熊谷「マジかよ……」

無死一、二塁だったがこれで二死一塁である。

続く村田も凡退し、ようやく白鷺の攻撃が終わった。

平沢（3回表終了で8ー0か……）

プロ野球でも最近8ー0から同点に持ち込んだ試合はあるがこれは高校野球である。

このままだと7回コールドで終わってしまう。

木下「よし！最低でもこの回1点を取れ！白鷺に俺たちの強さを見せてやれ！！」

みんな「オッス！」

永見の荒れ球でようやくチェンジ（後書き）

和「やっと終わったわね」

唯「熊ちゃん残念そうだったね」

憂「中野さん素晴らしいプレーだったね」

梓「お兄ちゃん、凄いよ！」

ヒットは木下が出した。**(前書き)**

主人公の高校なのに…

ヒットは木下が出した。

アナウンス 「三回の裏の攻撃は七番、セカンド、中野くん」

中野 「シャアアア！一発かましたるぜ！」

平沢 「ホントお前と梓って兄妹？」

中野 「そうだよ！」

平沢 「梓ファンかわいそうに…」 ボソツ…

中野 「何か言ったかい？」

平沢 「別に」

主審 「バッターラップ！」

中野 「おっといけね！」

熊谷 （さて…このバカをどうやって料理するか…）

星野 （コイツ最初から調子こいてるよね？当てていい？）

ダメだ
熊谷

熊谷 はマスクを被りながら考える。

熊谷 （ボール球来い、高目のな）

星野（了解）

さあ、マウンド上の星野、ゆっくり振りかぶって投げた！

【カキン！】

星野「キャッチャー！」

熊谷「オーライ！」

【バシッ！】

主審「アウト！」

中野「ゴメン、ゴメン、ついボール球を…」

木下「殺すぞ？」

中野「さーせん…」

アナウンス「八番、センター、御園くん」

【カッキン！】

小坂「へーイ！」

一塁審「アウト！」

アナウンス「九番、キャッチャー、木下くん」

木下「シャアアア！」

スタンドからいきなり「ドカン」が流れ出した。

【カキン！】

熊谷「あ！」

甘く外角に入ったストレートをセンター前に弾き返された。

熊谷「氣い入れ替えるぞ！」

続く宮本がフライを打ち上げ桜木が捕ったためチェンジ。

白 125 — 8

桜 000 — 0

ヒットは木下が出した。(後書き)

―三塁スタンド―

梓「結局凡退してるじゃない！」

―一塁スタンド―

？「やっぱり桜木は打力すげえな」

？「同じ高校生とは思えない」

？「お前もすげえじゃん！」

？「そうだよ！」

？「このフランクフルト不味いな」

こいつらの正体は次号で！

一年生速球投手平沢投入（前書き）

律「私たちの出番は？」

虎之介「まだない」

律「ヒドい、けいおんじゃないじゃん！」

虎之介「入学すらしてねえじゃんお前」

律「あ…」

一年生速球投手平沢投入

安藤「でもやっぱり星野のカーブは凄いよね！」

幸野「落差50cmのカーブだろ？」

黒龍「んなもん打てるわ」

浦沢「言っただなおまえ？」

神宮寺「フランクフルト不味いな」

こいつらは黒鳥学園の一年生達

安藤風太と愉快的な仲間達：

幸・浦・黒「オイ！！」

失礼

安藤風太

幸野誠邪

浦沢和真

黒龍牙威

神宮寺龍由

の4人と1匹

神宮寺「1匹じゃねえ!!」

黒龍「ゴリラだろ貴様は？」

神宮寺「ゴリラが喋るか!!」

幸野「おまえは」

神宮寺「ぐっ…」

浦沢「そんなことより白鷺の攻撃が始まったぜ」

安藤「あれが桜木？」

浦沢「桜木はネクストバッタースサークルにいる」

安藤「あいつかあゝ…痩せてない？」

幸野「少なくともホームランバッターじゃない気がするんだよなあ」
「」

【カキン!】

5人「お!!!」

一塁審「アウト!」

幸野「あのライト守備いいな」

黒龍「平沢だろ？」

幸野「知っているのか？」

黒龍「ああ：桜木と同じシニアで俺のチームと戦った」

幸野「どんなやつ？」

黒龍「基本的に流し打ちしかしない、つまり力が無いんだ」

幸野「楽勝♪」

安藤「ねえ見て！桜木が打席に立つよ！」

ブラバンの「We will rock」が流れてきた。

幸野「しかし熊谷の『レッツゴー習志野』には驚いたな」

浦沢「そんな名前なの？」

幸野「確かな、でも曲からにして間違いない」

【カキイン！】

安藤「あ、打った」

レフトが下がり：また入った

一塁スタンドから歓声が上がった。

幸野「ダメだこりゃ…5回コールド決定じゃん…」

ーグラウンドー

木下「バカヤロウ、アレほど甘く入れると言ったのに…」

北村「しかし9点差か…」

木下「7回で終わるぞ…このままだと」

するとライトから平沢が走ってきた

平沢「先輩、監督が俺に投げろと…」

木下「え？」

木下がベンチを見ると二年生の桂が審判に交代を告げていた。

アナウンス「桜ヶ丘高校守備の交代を致します、ピッチャーの永見くんがライト、ライトの平沢くんがピッチャーになります。」

木下「またか…」

平沢「今日もお願いします！」

木下「わかった…」

一年生速球投手平沢投入（後書き）

白 1 2 5 1
9

桜 0 0 0
— 0

白 星野／熊谷

桜 上野－永見－平沢／木下

岩隈よりも読売のロメロの方がイメージとしては合ってそうな気がする。(前妻

平沢 「タイトルナガ！」

虎之介 「気にしない、気にしない」

岩隈よりも読売のロメロの方がイメージとしては合ってそうな気がする。

平沢「はあ〜」

俺、平沢誠は白鷺の五番打者、野坂賢太郎と対戦中

B●

S●●

O●

木下先輩の言うとおりに投げる。

【カキン！】

三塁審「ファアル！」

平沢（粘るな…）

最初の様子見のボール以外、全てファールにされる。

平沢（もう9点差なんだから…メジャーだったらデッドボール当てられてるぜ）

平沢はそう悪態をつく。

木下（はあ…上野と違って平沢は変化球が無いからリードしづらいな…）

とりあえず木下はフォークを指示した。

平沢^{ほい}

平沢が読売のロメロみたいな投げ方で投げた。

野坂「わっ！」

【ブーン！】

主審「ストライクバッターアウト！」

野坂「そこで変化球かよ…」

平沢（さあ次は唯一の二年生、景山奨志だ…）

アナウンス「六番、センター、景山くん」

平沢（初級低目の直球お願いします。）

平沢からサインを送る。

木下（別にいいけど）

木下がOKのサインを出す。

平沢が振りかぶって…投げた！

【カキン！】

平沢「おりゃ！」

【バスッ!】

主審「アウト!」

平沢「ふう」

岩隈よりも読売のロメロの方がイメージとしては合ってそうな気がする。

（後妻

）サイド）

浦沢「やっぱりアイツいいプレーするなあ」

神宮寺「ん？」モグモグ

黒龍「ゴリラはよく食うな」

唯「お兄ちゃんすごいー！！」

憂「お兄ちゃんー！！」

平沢「お！唯達だ！」

ベンチから顔出して目が合う。

監督「家族見たら、手を振ってもいいぞ」

平沢「アザース！」手を振る

アナウンス「白鷺学園高校投手の交代を致します、星野さんに代わ
りまして、投手前川くん」

桜ヶ丘ナイン「え？」

交代が随分早いこと

アナウンス「星野くんに代わりまして、投手前川くん」

桜ヶ丘ナイン「え？」

平沢「前川が…？」

木下「なぜ？」

白鷺にとって相手は格下の高校だ、しかし甲子園の準優勝投手が出てきた。

・
・
・
・

「一塁ベンチ」

白鷺の監督「よし前川、行け！」

藪「なんで今更慶（前川）を出すんですか？」

白鷺の監督「もう殆ど勝負は決まったが、野球は何が起こるかわからん、さっきは変化球投手の星野、それで速球投手の前川、桜ヶ丘如き打ち崩せると思うか？」

熊谷「桜ヶ丘だけじゃなく、プロでもダメだと思います。」

前川「よ、さすが白鷺の掛布」

熊谷「あ…どうも…」

白鷺の監督「勝利が欲しければ行け！」

白鷺ナイン「おう！」

アナウンス「四回の裏、桜ヶ丘高校の攻撃は二番、ショート、小島くん」

・ ・ ・ ・

木下「なんで俺はマスクを被ってる？」

平沢「三者三振で終わったからです」

木下「なんで三者三振で終わった？」

平沢「前川がMAX150を連発したからです」

木下「このままだとどうなる？」

平沢「7回コールドでゲームセットです」

木下「しかし粘れば？」

平沢「9回まで行けます」

木下「そのためには？」

平沢「抑えます！」

木下「よし！行け！」

平沢はマウンドへ向かって走った。

交代が随分早いこと（後書き）

白 1 2 5 — 9

桜 0 0 0 — 0

白

星野一前川／熊谷

桜

上野一永見一平沢／木下

低目に投げるときは気をつけましょう。(前書き)

【投手】

平沢

【打者】

松戸

B ● ● ●

S ● ●

O

低目に投げるときは気をつけましょう。

しほろこせ…
松戸

松戸健介は打席で汗だくになりながらそう感じた。

現在気温34℃

暑いわけだ。

松戸（早く外苑前から末広町へ行ってまんだらけに行きたいよ）

そう余計な事を考えた瞬間

【パーン！】

主審「ストライクバッターアウト！」

松戸「……………」

アナウンス「八番、捕手、熊谷くん」

平沢（うわゝ、来ちゃったよコイツ）

平沢は打席に立つ熊谷を見るとゲンナリした。

平沢（さてどうやって攻めようかなゝ）

熊谷（初球は見るか…）

平沢が初球を投げた。

主審「ボール」

外角に外れ、ボール

白鷺の気迫こもった声援が響く

平沢（ただでさえ暑いんだからそう言うの止めてくれ）

平沢はイラついていた。

そしたら

主審「タイム！」

木下がタイムをかけた。

木下「平沢、カッコするなくまだ初球だぜ？」

平沢「あの声援マジうるさいんで…」

木下「仕方ないよ、野球とはそう言うスポーツだ」

平沢「そうですけど…」

木下「と言うわけで落ち着け、ロージン触るなりして気持ちを落ち着かせろ、後次は内角低目にフォークな」

平沢「わかりました」

そう言って木下は元に戻った。

平沢（しかし低目のフォークとか）

低目に落ちる系のボールを放つとどうなるかわかる？

木下「のああ！！」

木下がボールを後ろに逸らす。

平沢（取れなかったのかよ…）

平沢はその後、四球を出してしまう。

アナウンス「白鷺学園、選手の交代を行います。9番、前川君に変わりました小宮山君」

平沢（はあ）

代打・小宮山

木下（小宮山？また高一かあ）

平沢（幸一が来よった）

白鷺学園は代打に小宮山幸一を投入した。

小宮山「よろしくお願いします！」

打席に立つとき元気よく審判に挨拶する小宮山くん

木下「俺へは？」

小宮山「なんで敵チームの選手に挨拶せねばならないねん」

木下「それもそうだな」

何気に納得する木下

木下（よし、こういう調子こいてるやつには内角だあ）

平沢（ほい）

平沢は内角ギリギリに投げ込んだ。

主審「ストライク！！」

木下「よし！」

小宮山「ふう…」

小宮山はバットを少し短めに持った。

木下（内角を待ってるな、じゃあ外角へ）

平沢（ほーい）

【ピシュ！】

【カキーン！】

平沢「クッソ！」

平沢のコントロールミスで内角に来た球を小宮山が打った。

塁審「ファール」

木下「タイム！」

主審「タァイム！」

木下がマウンドに来た。

木下「コントロールミスはするなよな〜」

平沢「すみません」

木下「しかしそれで小宮山が内角狙いだとはよく分かった」

平沢「そうですか？」

木下「そうだ、次から内角攻めるぞ」

平沢「はい」

木下はそう言うのとキャッチャーボックスに戻った。

そして木下は内角にサインを出した。

【ピシュ！】

主審「ボール！」

平沢「あ…」

木下「え！？」

ボール半個分ズレてボール。

木下は次も内角低目を要求した。

【ピシュ！】

【カキン！！】

小宮山の打球は中野のところへ…

中野「任せろ！！」

中野がライナーでとってツーアウト。

そして中野は一塁に投げたが…

北村「おい!!」

悪送球でボールはフェンスに…

熊谷は悠々セーフ。

平沢「敦…」

木下「あのバカやろ…」

結局ゲッツーには出来ずに一番小坂に回ったのであった。

代打・小宮山（後書き）

祝！21話（笑）！

守備に不安がある宮本と小島、守備に定評があるがさっきエラーした中野です。

＼5回の白鷺の攻撃＼

・松戸が見逃し三振。

・熊谷が四球選りランナー一塁

・前川の代打小宮山の打球は二塁中野へライナーで行くが一塁への悪送球で一塁憤死ならず

守備に不安がある宮本と小島、守備に定評があるがさっきエラーした中野です。

現在白鷺学園の打者、小坂司を2ボール2ストライクとした。

木下「さあてと」

横浜ファンの木下は外角いっぱいに投げるよう支持。

平沢（え〜〜）

平沢は顔には出さなかったが内心嫌だった。

平沢（俊足の打者でっせ〜、外角なんか打たせたら三塁の宮本先輩が捕球する間に一塁着いてますよ〜）

しかし先輩には逆らえない平沢は

【ピシュ！】

【カキン！】

小坂は上手く三塁方面に行くように外角を流し打ちした。（小坂は左打者ね）

木下「サアド！」

宮本「任せろ！！」

そう言って宮本は捕球しようとするが、慣れない飛び込みをしたせ

いで

宮本「小島！頼んだ！」

三塁は抜かれ

小島「ええ！？」

いきなりショートに支持させた小島雄太郎は打球に対応出来ず、かろうじて取ったが

宮本「セカンド！」

小島「セカンド！」

セカンドの小坂をアウトにするために投げるが

中野「せんぱあい！！！」

送球は中野の頭上を超えてまた北村が捕球するはめになり

熊谷「これで10点と…」

その間に熊谷がホームを踏み10―0とした。

木下「このままだと5回コールド…」

・
・
・

・ ・ ・

続く葛城もまた2ボール2ストライクとした。

木下（今度は内角行くぞ）

平沢^{はい}

【ピシュ】

【カキン！！】

木下（またショット行くのか！？）

しかし打球は二塁の中野が取って丁寧に一塁送球で3アウトチェンジ。

白10－0桜

木下「このままだとこの回で終わるぞ…」

守備に不安がある宮本と小島、守備に定評があるがさっきエラーした中野です。

白 1 2 5 1 1 — 1 0

桜 0 0 0 0 — 0

白鷺

星野—前川／熊谷

桜ヶ丘

上野—永見—平沢／木下

最後の5回となるか？

木下「いいかお前ら、この回で終わりたいか？」

全員「いいえ」

木下「しかし今何点差だ？」

全員「10点差です」

木下「すると大会規定でどうなる？」

全員「コールド負けです」

木下「最低でも1点はとれ！！桜ヶ丘の意地を見せろ！！」

全員「おー！！」

上野（って言うかこの戦力で白鷺に10点差なのは正直凄いよ）

そして神宮のマウンドには熊谷が立っていた。

平沢「熊谷が投手かく俺たち舐められた者ですね…」

木下「投手としてはどうなんだ？」

平沢「最悪ですよ…」

中野「球速は誠並みに速いですがコントロールが10球放ってやっ

とストライクに入るっていう感じです」

木下「酷いな」

【バン!!】

木下「しかしさっきから良い音出しているなあ」

平沢「なんでストライクに入ってるの？あの投法で…」

熊谷の投法は大きく振りかぶった後、全体を使って大きく投げると言うあの「ザトペック投法」だった。

木下「あの投法は何だ？ふざけているのか？」

平沢「真面目にやってますよ」

木下「あれが？」

平沢「なんでも『ザトペック投法』とか言う…」

木下「聞いたことはあるなそれ」

そうこうしてるうちに熊谷の投球練習が終わり、小田島が打席に立った。

審判「プレイボール!!」

小田島「しゃあ!!」

小田島先輩がそう言ったのと同時に熊谷が振りかぶって投げた。

審判「ボール!!」

木下「確かにコントロールは悪そうだな」

この回から捕手の小宮山が熊谷に投げかえしたら良いテンポで熊谷が投げた。

審判「ストライク!」

木下「小田島!」

木下は小田島を呼ぶとジェスチャーで「バットを短く持て」と支持。

小田島もジェスチャーで「了解」の合図を送る。

熊谷が投げた。

審判「ボール」

B ● ●

S ●

O

小田島（高目に来てるな…）

小田島は高目に狙いを絞った。

熊谷が投げた。

ボールは低目に来た。

小田島（ゲッ！）

高目を狙っていた小田島は手が出なかった。

審判「ストライクツウ」

平沢「コントロール良くなってるな」

小宮山が返球し、また独特なリズムで投げた。

小田島（今度こそ！）

小田島は食らいついた。

審判「ファール」

小田島（いったゝ（泣））

小宮山「痛そうですね」

小田島「え？あ…うん…」

そう言って小宮山は返球する。

またいいテンポで球を放つ熊谷。

熊谷「あらよっと」

ボール…
小田島

審判「ボール！！」

これでフルカウント

小田島「フォアボール来てくれ」

熊谷がまたテンポ良く投げる。

小田島「ボール！！ボール！！」

審判「ストライクバッターアウト！」

小田島「ああ…」

これで1アウト

熊谷「1ナウト、1ナウト！！」

小田島「くっそ！」

アナウンス「六番、投手、平沢くん」

平沢「なんとしても塁には出る！」

木下「平沢ー！あの日の伝説をー！」

「あの日の伝説」とは一回戦での決勝ホームランである。

平沢（無理だな）

速攻で諦める平沢

熊谷はサインを見るとテンポ良い投法で投げた。

【カキン！！】

熊谷「え？」

平沢（投手でも内角に行くんだな…）

ボールは高々と上がり

木下「行け！行け！」

スタンドでも

梓「行け！！！」

憂・唯「入れ！！！」

結果は！？

執念の一年生、平沢誠

唯「入れ〜!!」

憂「入って〜!!」

梓「行け〜!!」

しかし彼女たちの期待も虚しくボールは左に逸れ

審判「ファールボール」

ホッ:
熊谷

唯・憂「ああ…」

梓「入んなかった…」

木下「くっそ!!」

熊谷（入ったとしても10-1、伸び伸び行こう）

熊谷はすぐに気持ちを入れ替えた。

平沢（ふう〜）

平沢は心の中で深呼吸した。

熊谷（平沢は昔は非力のバッターだったけど今じゃフェンス越えす

るほどのバッター…)

熊谷は捕手としての平沢の攻め方を考えている。

しかし小宮山は内角を要求

熊谷(ん?内角?別にいいけど)

熊谷はテンポ良く投げる。

平沢(また内角かよ…)

【カキン!!】

審判「ファール！」

平沢(ちょっと待て、熊谷ってこんな剛球だっけ?)

平沢は一回打席から出て気持ちを整えた。

熊谷の予想以上の投球に内心焦っていた。

平沢(次は何が来そう…内角が一番来そうだが小宮山なんて俺知らんし…)

平沢は投手の熊谷よりも捕手の小宮山の配球の方が気になった。

スタンドにて)

和「ねえねえ、野球のバッターって一度入ったらもう出られないんじゃないの？」

唯「さあ」

憂「タイムの時とか投手がモーションに入っていなければバッターボックスから出てもいいんですよ。」

和「へえ」

「グラウンド」

平沢は小宮山の方をチラチラ見る。

小宮山の配球がどんなのかをさっきの小田島の打席から読み取ろうと必死だ。

平沢（何がくる…熊谷が捕手だったら内角攻めだから死球狙いも痛いけどアリだけどこの小宮山って誰だ？どこのシニアだ？）

平沢が知らないのも無理は無い、彼は千葉県から来た選手なのでシニアリーグは千葉県のリーグだ。

東京の桜ヶ丘シニア出身の平沢は千葉県の選手など知らない。

小宮山（クマさん、ここは内角行こうぜ！！）

熊谷（OK！）

熊谷はザトペック投法独特のフォームから内角狙って投げた。

ボールは軽く逸れて平沢の所へ

平沢（来た！）

平沢はワザとよけたふりして当たった。

審判「デッドボール！！テイクワンベース！！」

平沢（痛いよ…）

マウンド上の熊谷は

熊谷（あんの野郎…今のワザとだな…）

熊谷には平沢の故意死球がバレていた。

平沢「あゝ痛い、痛い」

桜木「テメェ今のワザとだろ？」

平沢【ギクッ！！】

ついでに桜木にもバレていた。

勝負事に勝ち負けはつき物

アナウンス「七番、セカンド、中野くん」

中野「来たぜ来た来た！」

木下「何が来たんだよ…」

小宮山「何だあのバカは？」

熊谷「ただのお調子者だよ」

小宮山「ああいう奴が地味に活躍するんだよね」

熊谷「そのああいう奴の妹が結構可愛かったりする」

小宮山「マジで!?!」

熊谷「マジで」

小宮山は「マジかあ」と言いながらキャッチャーボックスに向かった。

小宮山（こんな奴の妹がね…ああでもコイツ結構ハンサムやな…）

熊谷（よっしゃ中野殺し始めよ）

熊谷は小宮山にこっそり合図を送る。

小宮山（外角高目、了解）

熊谷は今度はザトペックじゃなく普通に投げた。

審判「ボール」

熊谷（次、内角低目）

小宮山^{ホイ}

審判「ストライク！」

熊谷（ホイ、外角低目）

小宮山（イヤッササー！）

審判「ボール」

熊谷（次、ど真ん中）

小宮山（ホイ…ってエエエエ！）

【カキイン！】

小宮山「打たれたあ！」

熊谷「よっしゃあ！5－4－3や！！」

小宮山「あ…」

中野「マズい！」

いきなりのど真ん中に内心「ラッキー!」と思った中野だったが結局打たされたただけだった。

中野「畜生!」

審判「セーフ!」

中野「へ?」

中野（あ、一塁はセーフね…）

そんな気持ちで二塁見たら二塁には平沢がいた。

中野（なんで二塁に平沢がいるの?）

中野は少し考えた結論は簡単だった。

中野（なんだ、オールセーフか…）

しかしマウンド上では

熊谷（村田…）

村田^{スマン}

まあ何があったという村田のエラーです。

熊谷「ふう」

熊谷はマウンド上で深呼吸した。

アナウンス「8番センター、御園君」

平沢「御園先輩、続けてください！」

中野「御園先輩！続けてください！」

小宮山（御園は左だから…どうやって攻めよう…）

熊谷（左か…）

小宮山（とりあえず内角…際どい所を…）

熊谷（了解）

熊谷は初球を投げた。

御園「わぁ！」

御園は体を逸らした。

審判「ボール！」

熊谷（って言うわけでバッターに内角の恐怖…が出たはず…）

御園（内角が怖いなあ…）

小宮山（次は外角で…）

熊谷（いや、内角だ）

小宮山（でもさっき投げたじゃん）

小宮山は渋々と熊谷の要求を認めた。

熊谷の第2球

内角へのストレート

【カキン！】

熊谷「ウッシ！」

小宮山「オーライ、オーライ」

主審「アウト！」

小宮山「ツウーアウトや！後一人や！」

アナウンス「9番、捕手、木下君」

木下「やったるで！」

木下は打席の中でバットを振る。

主将でもある彼は桜ヶ丘では誰より一番熱い男だった。

しかし…それが裏目に出て、

【カキン】

三塁審「アウト！ゲームセット！」

木下「ちつくしよお！」

初球を打たされ、平凡なサードフライで試合終了

ベンチでは上野達三年生が泣いてる

監督「試合終了だ、早く行け」

そんな選手達を監督は少し冷たく、しかし暖かそうな声で促した。

試合終了のサイレンが鳴り響き、一年目の夏が終わった。

勝負事に勝ち負けはつき物（後書き）

白 2 5 1 1 1 — 1 0

桜 0 0 0 0 0 — 0

【大会規定により5回コールド】

【白鷺】 星野—前川—熊谷／熊谷—小宮山

【桜ヶ丘】 上野—永見—平沢／木下

次回から新章【〓一年目夏秋季大会へ向けて〓 新主将誕生】です。

新主将誕生（前書き）

新章です。

新主将誕生

俺達桜ヶ丘高校野球部が明治神宮を後にして数週間がたった。

（桜ヶ丘高校グラウンド）

学校の裏手にあるこのグラウンドは学校創設当時からある。

桜ヶ丘高校野球部の歴史は長く過去に3人のプロ野球選手が出ている。

1人が黒川哲郎と言う人で卒業後東都大学リーグで活躍、結果ドラフト2位で西鉄ライオンズに入団、その後近鉄バファローズと日拓ホームフライヤーズ、ロッテオリオンズを行き渡り引退、現在は評論家だ。

2人目は香川久幸と言って今の監督と同期だ。

だが正直、この選手は殆ど知らない。

5年くらい南海ホークスと福岡ダイエーホークスで活躍した程度で今は学校近くの飲食店を開いている。

そして3人目が荻窪裕二

この人は俺の憧れの人だ。

何しろ俺と同じシニア出身で生まれて初めて見たプロ野球の試合の

勝ち投手だ。

実はこの投手がいたから俺は桜ヶ丘高校に入学したのだ。

ドラフト6位と下位指名だが独特のフォームから繰り出される速球と落差40cmのフォークを武器に阪神タイガースで活躍した。

但し、怪我に悩まされ選手生命は短かった。

今年から阪神タイガースのスカウトになった。

そしてなんと！2回戦の前に母校である我が桜ヶ丘高校に来た！

中野もウスウス気づいていたと思うけどアイツバカだからもしも荻窪さんだと知ったらせつかくお忍びで来てるのに台無しになる。

今、夏の大会が終わり木下主将達三年が引退するため監督から新主将が伝えられる所だ。

監督「えー、木下達三年が今日で引退するんだがー正直、この戦力で強豪白鷺学園に立ち向かえたのは立派だった。5回コールだったが10点で抑えられたのはよかった」

木下「次の主将は桂、お前だ」

桂「俺すっか!?!」

中野（桂先輩だってよ…）

平沢（永見先輩じゃないのか…）

監督「桂、新主将として一言頼む」

桂「ハイ…えゝ、夏の大会が終わり夏休みき入る訳だがみんな秋季大会に向けて頑張っていこう！」

部員「はい！！」

監督「新オーダーも決めてある」

？中野（遊） 1

？桂（中） 2

？五十嵐^ニ 2

？北村（三） 2

？小田島（左） 2

？平沢（右） 1

？宮川（一） 1

？佐々木（捕） 2

？永見（投） 2

平沢「六番かゝ」

中野「え？監督！俺が一番すつか！？」

監督「期待してるぞ」

中野「うっす！」

木下「凄いよなあ、俺なんて今年やっとレギュラーだもんなあ」

平沢「へえ」

監督「今年の一年は豊作だったな、来年は三回戦まで行けたらいいな♪」

部長「目標が低いですよ監督」

新主将誕生（後書き）

次回から皆さんお待ちかね原作キャラも出始め始めます。

夏休み前のくその？（前書き）

章の管理が遅れております。

夏休み前の～その？～

ある夏の日の早朝

ピピピピ…

平沢「ん…朝か…」

早朝5時、平沢家長男平沢誠起床

朝のニュースを見ながら1人で朝食。

平沢家の親は仕事とか色々な関係で家にいないことが多い。

だから朝食は大概、1人で作る。

平沢「フアア…」

まだ眠気が覚めてなく眠そうだ。

そんなこんなで約1時間後

憂「おはよー」

平沢「おう」

次女平沢憂起床

そんな時に、誠は制服に着替えて出掛ける準備をしていた。

平沢「そんじゃ行ってくる」

憂「行ったらっしゃーい」

誠は野球部の朝練のために早く起きている。

・
・
・
・
・

平沢「おはようございます！」

上野「おう」

平沢「おはようございます！」

木下「おはよう」

平沢「おはようございます！」

北村「おはよう！」

学校に着いた誠（以下平沢）は先輩方に挨拶する。

永見「誠、敦はまた遅刻か？」

平沢「さっき電話して叩き起こしたんで間に合うはずですよ」

永見「そうか」

朝7時

中野「ヒィ、ヒィ」

平沢「俺の目覚ましコールは効いたな」

中野「そ…そうだね…」

永見「おせーぞ敦!!」

中野「さーせん!!」

それから少し経ち、監督が来た。

監督「みんな揃ったか？」

木下「揃いました!」

監督「新主将は？」

桂「ここにいます!」

監督「それじゃ今日から頼む」

桂「ハイ!」

木下「もう何回も見てるけど実際やるのは初めてだろ?」

桂「そうっすね」

木下「不安だったら今回だけ俺も手伝うから」

桂「アザース！」

そう言う桂は

桂「よし！ベースランニングするぞ！」

部員「オウ！」

桜ヶ丘高校野球部は昔から朝練は主将が仕切ると言う決まりがある。

そして今日から引退する木下に変わり桂が仕切る事になった。

・ ・ ・ ・ ・

監督「えー、これで朝練は終わる。今日入れてあと数日で夏休みだが練習も勉強も気を抜かず頑張っ欲しい、じゃまた放課後に」

部員「ウッス！」

夏休み前のくその？（後書き）

「とある科学の超電磁砲？」 「阪神ファンのタイガース日記」の方
もよろしくお願いします。

夏休み前くその？く

く昼休みく

平沢と中野は学食を食いに食堂へ行った。

中野「腹減ったなあく、平沢」

平沢「そくだなく、『特盛りカツ丼』でも」

中野「あく新メニューの」

平沢「うん」

平沢はそう言って食券を買って注文した。

「特盛りカツ丼」は普通のカツ丼2，5人分の量である。

中野「それって食べそうで食べないよな」

平沢「そうそう」

中野「誠って朝食何食った？」

平沢「普通にどんぶり」

中野「げえ…」

平沢「これからは体もでかくなくちゃやっていかれないからな」

中野「アメフトじゃないんだから…程々にしとけよ…」

平沢「大丈夫だ、問題ない」

そんな高校生の昼休みだった。

夏休み前くその？く（後書き）

次回から夏休みです。

夏休み前の放課後練習程ダルいものは無い(前書き)

短いです。

夏休み前の放課後練習程ダルいものは無い

【キンコンカンコン】

生徒「起立！気をつけ！礼！」

全員「さよなら」

先生「はいよ」

中野「平沢」

平沢「なんだ？」

中野「食堂言ってなんか軽食食べようぜ」

平沢「いいぜ」

【食堂】

中野「……………なあ平沢、俺は『食堂で軽食食べようぜ』って言ったはずだ」

平沢「うん」

中野「けどなんだ？お前の前にあるのは…」

平沢「ミニカレーですか？」

中野「それって軽食なの!？」

平沢「じゃね? 『ミニ』だし」

中野「……………」

・ ・ ・ ・ ・

監督「うーし、それじゃ練習を始める」

桂「みんな行くぞ!!!」

全員「オー!」

【グラウンドの周りを走る】

中野「ヒィヒィ、疲れるぜ」

平沢「これくらいでへばるな」

桂「よーし! 次はノック行くぞ! 各自自分の守備位置に付け!」

中野「はぁ、やだな」

平沢「萎えるな」

中野「放課後の練習ってダルいんだよね」

夏休み前の放課後練習程ダルいものは無い（後書き）

次から【番外編・白鷺学園対黒龍学園】をやります。

【紅白戦】いきなりの通達（前書き）

【番外編】として白鷺学園対黒鳥学園の話しをやる予定ではありません。

【紅白戦】いきなりの通達

監督「紅白戦をやる！」

平沢「え？」

監督「3年生の引退試合も兼ねての紅白戦だ。1年2年は秋の大会のためにもちゃんとアピールしろよ」

桂「はい！」

平沢「はい！って桂先輩！3年引退試合の紅白戦って…」

桂「ああ、一坊は知らないか…」

平沢「はあ…」

桂「簡単に言うと『紅白戦』だ、だけど3年生は引退するだろう？だから3年生とを中心にした『紅組』と補欠等を中心にした『白組』に別れて戦うんだ」

平沢「それって紅組の断然有利じゃないですか？」

桂「監督の話だと10年前に初めて紅組の全勝だ」

平沢「うわあ…」

桂「まあ『引退試合』だし最後は3年生に花を持たせたいんじゃないの？。」

平沢「まあ確かに…」

監督「それではチーム分けを発表する！」

平沢「ゴク…」

【紅白戦】いきなりの通達（後書き）

次回原作キャラの身内が新登場！

果たして誰の兄貴か！？

平沢「この話し幾ら何でも兄弟多すぎ…」

黙れ！

【紅白戦】 田井中律の兄（前書き）

新キャラ田井中律の兄貴「田井中悟」

田井中「どうも、田井中悟です」

【紅白戦】田井中律の兄

監督からチーム分けが発表された後、「運動公園のグラウンドでやる」と言われてバスで移動中の車内

平沢「3年生に勝てるかな」

中野「殆どレギュラーだしな」

平沢「木下先輩や上野先輩とかは2年生で出てるのに」

中野「こちらとら僅か2試合だからな」

平沢「でもこの試合活躍すれば監督に良い評価を得られる」

中野「真面目にやらんな」

そう言う和平沢はバスの前の方にいるある人に気づいた。

平沢「それはそうとアイツ田井中じゃね？」

中野「田井中？ ああ梅沢シニアの四番」

平沢「アイツこの高校に来てたんだ」

中野「半年も野球部にいたはずなのに何で存在感が無かったんだ？」

平沢「だってホラ今まで正捕手は木下先輩だったし二番手捕手は佐

々木先輩（二年）がいるから、田井中はまだなんじゃない？」

中野「なる程」

【紅白戦】 田井中律の兄（後書き）

現在選手名鑑を作成中。

【紅白戦】試合開始!

【桜ヶ丘運動公園】

桜ヶ丘高校からバスで5分の場所にある運動公園である。

その野球グラウンドで今、3年生の引退試合を兼ねた桜ヶ丘高校野球部紅白戦が行われようとしていた。

そのグラウンドを見ている二人の女子中学生がいた。

??? 「あ! ホラホラ見て! 兄貴がいる!」

??? 「そりゃ野球部員だから: いるのは当たり前でしょ」

??? 「兄貴『今日は出れそう』とか言ってたからな」

【本日のスタメン】

紅組

? 宮本 (三) 3

? 小島 (遊) 3

? 大西 (右) 3

? 小田島 (左) 3

? 木下 (捕) 3

? 武川 (中) 3

? 岡村 (一) 3

? 御園 3

? 上野 (投) 3

【白組】

? 中野₌ 1

? 桂₌ (中) 2

? 五十嵐₌ 2

? 北村 (三) 2

? 田井中 (捕) 1

? 平沢 (右) 1

? 宮川 (一) 1

? 椿 (左) 1

? 永見 (投) 2

永見「田井中ってあの梅沢シニアの田井中か、よろしくな」

田井中「こちらこそ」

審判は主審が監督、塁審は一年生部員がやることになった。

監督「プレイボール！」

田井中
それでは…

永見（はぁ！？）

永見が驚くのも無理は無い、田井中はド真ん中を要求しているのだ。

永見（いくら3年生の引退試合だからって言っても…ド真ん中な無いだろド真ん中は…、矢野輝弘もビックリだぜ）

永見はそうブツクサこいて投げた。

【カキン！】

永見「そらみろ！」

塁審「アウト！」

永見「は？」

三塁手の北村がガツシリ取ってたり

田井中「よっしゃ、よっしゃ」

永見（何が「よっしゃ」や、見かけによらず危なかった奴だ…）

田井中（永見先輩、ムービングだからド真ん中でも大概凡打になるはず、こんな投手程扱いづらい）

ムービングとはぶっちゃけて言えば「不規則に動くストレート」の事である。

ナックルとは全然違います。

小島「ふう〜」

小島が打席にたった。

【紅白戦】 永見と田井中（前書き）

まだ原作キャラとの接点少ないですね

【紅白戦】 永見と田井中

小島「ふう〜」

小島は打席にたった。

さあて
小島

永見が投球モーションに入る。

【ビシュ】

【カキーン！】

小島の打球はレフト前へ

小島（永見のムービングはアイツが入部した頃から知っとる）

そして今作品初登場の大西照が打席にたった。

田井中（大西先輩か…、永見先輩、様子見で外してください）

永見（言われなくても）

永見はそう思って外したつもりだった。

【ビシュ】

【カキーン！】

田井中（え？）

大西の打球はセンター前へ

連打で一氣に一死一二塁である。

田井中（あちゃー）

いきなりこれかいな…
平沢

そして打席に小田島がたった。

田井中「タイムお願いします」

監督主審「タイム！」

主審である監督がタイムをかけた。

田井中がマウンドに駆け寄る

永見「田井中、始めての実戦だから楽にしていけ」

田井中「はい、でも今はそうじゃなく」

永見「なんだ？」

田井中「小田島先輩への攻め方ですけど…」

永見は田井中の説明を聞くと

永見「わかった」

田井中「じゃあよろしくお願いします」

田井中が本塁に戻る。

永見「ふう〜」

永見は大空を見て気持ちを落ち着かせた。

永見（ここで抑えなきゃエースじゃないな）

永見は思考回路を切り替えると

永見「フンガア！」

【ビシュ！】

今まで以上に力をこめて投げた。

主審「ストライク！」

田井中「ナイスピー」

田井中の返球と同時に

永見「オラア！」

また投げた。

主審「ボール！」

田井中「タ、タイム！」

田井中は慌ててタイムをとると

田井中「永見先輩！落ち着いて投げてくださいよ！さっきの球はかなり甘かったですしその後のボール球も相当逸れましたよ！」

永見「ワリイワリイ、考え事してたからな」

田井中「そうですか…」

田井中が元に戻る。

永見（そうだな…先輩が落ち着かないとな）

自分を言い聞かせた永見は田井中を見る。

田井中（外角をお願いします）

いいだろ
永見

永見はクイックで投げた。

【カキイン！】

永見「キャッチャー！」

田井中「オーライ！」

田井中がファウルゾーンで捕球した。

木下「さて俺の番だ！！」

【紅白戦】 永見と田井中（後書き）

平沢（ライトに飛ばせ紅組、ライトに飛ばせ紅組♪）

中野（どっかの中学の女子が見てる）

【紅白戦】木下 v s 田井中

田井中（木下先輩かあゝ）

木下「田井中、お前は確か夏の大会には出てないよな」

田井中「はい」（あなたが正捕手だったでしょ）

木下「永見の野郎リードしづらいんだわ」

田井中「でしょうね」

木下「で？お前は俺をどう攻める気だ？」

田井中「秘密です」

木下「チェッ」

田井中
おひ……

田井中は木下の攻略法を考える。

田井中（木下先輩見たいな人は…、初球様子見のボールでしょ）

田井中は構えた。

【ビシュ】

主審「ボール」

田井中（よし…次は…）

永見（はいはい）

【ビシュ】

低めの落ちる変化球

主審「ボールツウ」

木下（今のはフォークだな）

田井中（次は思い切りインコースに）

永見（はいはい）

永見は一呼吸置いてから、クイックで素早く投げた。

しかし…

木下「うわっ!？」

【ドス!】

田井中「ああ!」

主審「デッドボール!」

田井中「大丈夫ですか!？」

木下「いてえ…」

主審「木下、怪我してないよな」

木下「はい大丈夫です」

木下はそう言いながら一塁へ向かう。

木下（背中に当たったのが不幸中の幸いだ…）

続く武川を凡打にとり、チェンジ。

【紅白戦】木下 v s 田井中（後書き）

くグラウンドの外ではく

律「ああ！バッターにボールが当たった！」

漚「ううう」

律「漚？どうした？」

漚「痛そうアレ」

律「あゝ！野球のボールが漚の頭にく！」

漚「ヒイイイイイ！！」

くグラウンドく

平沢「うるさい中学生だな」

田井中「何やってんだアイツは…」

【紅白戦】新切り込み隊長

紅組の先発である上野辰也の投球練習が終わり、白組の一番打者、中野敦がバッターボックスにたった。

中野「お願いします！」

木下（んじゃバカには最初ド真ん中に）

【ピシュ！】

【バス！】

中野「ヒャア！」

審判「ストライク！」

木下「オイオイ…、今のド真ん中だろ」

中野「ド真ん中でもいきなり来るとビックリしますよ」

木下「小島や宮本は普通に打ち返すけどな」

中野「……………」

木下（次、内角にストレート）

上野（威嚇？）

木下（まあ、そうだが…ちゃんとストライクにしろ）

上野^{はいよ}

【ピシュ！】

中野「ヒャア！」

審判「ストライクツウー！」

木下「オイオイ、微々ってんじゃねえよ」

中野「さーせん」

木下（一球外せ）

【ピシュ！】

中野「お？」

【カキン！】

木下「なに！？」

上野「高めのボール球に手を出した？」

しかし打球はフワフワと

小島「くっ…」

小島、宮本の頭上を超えてシングルヒットになった。

木下「あの野郎…」

木下は中野を睨みつける。

中野「そんな目で見ないでよ…」

中野はそう悪態を付いた。

二番の新キャプテン、桂雄を迎えた。

木下（一球牽制頼む）

上野^{ほい}

上野が一塁に牽制する。

中野「わお！」

塁審「セーフ」

上野（まあさすがに牽制されてるのは承知かな？）

木下（低めで引っかけるぞ）

木下はサインを出すのと同時に宮本と小島を手招きした。

前進守備の合図である。

桂（前進守備だ…、低めの変化球あたりが来るな）

上野は一塁中野を目で牽制しつつ…

【ピシュ！】

桂（見送る！）

【バシィ！】

審判「ボール！」

木下^{チッ}

中野（様子見？）

木下（二球目も同じ低めに持って来い、但ストライクにな）

【ピシュ！】

【カキン！】

審判「ファールボール！」

桂「ふう…」

木下（さて…、次はどうするか…）

桂（中野…、次は走れ）

桂が中野にサインを送る。

中野^{ウツス}

中野がヘルメットのツバを掴んで答える。

木下（直球来い！中野を刺す！）

上野（は？）

上野は一瞬戸惑ったが中野が走る気満々な顔をしてたので

上野（了解）

【ピシュ！】

桂が援護の空振りをするが

木下「ナメんな！！」

【ピシュ！】

中野「げえ！？」

塁審「アウト！」

平沢「何だ今の！」

田井中「マジかよ…」

平沢と田井中が驚くのも無理は無い。

中野は俊足で、中学時代は盗塁成功率90%以上とも言われてる。

中野「はええ…」

木下「いやあ、肩が軽いぜ」

【紅白戦】新切り込み隊長（後書き）

山崎が中日に入団するようです。

【次回予告】

アイツが久々の登場です。

【今後について】

どうも、阪神政虎です。

この度、【けいおん！〜白球夢見て〜】を読んで頂いてありがとうございます。

大変申し訳ございませんが。

実は更新が止まる前から

「時間がかかりすぎて終わる気がしないし、まずけいおんキャラ出すのいつになるんだよ？」という状態になったので：

【作品の見直しをしますので、しばらくの間休載にさせて頂きます。

】

今後の事は、決まり次第お知らせします。

尚、あり得る事は

？小説の書き換え

？小説の書き直し

？は新しく作り直し、？はそのまま続行です。

大体早くて2月、遅くとも4月ぐらいまでには方針を決めますのでよろしく願います。

今後はより一層、中身のある小説にしたいという思いです。

最後に、この小説を楽しみにしていた方々には作者の不手際により、このような結果になった事をお詫び申し上げます。

【今後について】（後書き）

連載再開する時には、この話は消えます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9880u/>

けいおん！～白球を夢見て～

2012年1月8日20時46分発行